

株式会社パン・アキモ
所在地：那須塩原市
従業員数：50～60名程度

外国人材受入れ事例

製造業

とちぎ外国人材活用促進協議会

外国人の受入状況 2020年12月現在

○技能実習生のベトナム人4名を受入れ中（2016年2月から受入れ開始）



外国人受入れの目的・理由

- 先代社長が、発展途上国の方々にパン作りの技術を学ばせたいという思いから技能実習生の受入れを始めた。真面目さや器用さなどの面において評判の高いベトナム人を採用。

外国人の採用方法

- 現地で面接を実施。監理団体を介在させない企業単独型を採用しているため、採用担当のみならず、各部門それぞれが情報収集を行い、技能実習生の受入体制を整えた。

受入企業の声

- 採用する人材は、N3程度の日本語能力があることが望ましいが、将来独立の夢があるかどうかを一番重視する。独立の夢がある人材ほど、技能を習得しようとするため、技能実習制度に沿った教育ができると考えている。実際に帰国後、開業した元技能実習生もいる。
- 「仕事ができない人」と見られたくないとの思いから、ミスがあった際の言い訳や、自己防衛をしてしまうことがある。その際は、丁寧に言い分を聞きアドバイスを行っている。
- 普段の何気ないコミュニケーションが、社員の自信につながると考えている。



受入れや定着を進めるにあたっての工夫

- いつでも質問できる環境を整え、誰に質問すれば良いかを明確にするとともに、パン生地発酵等、各工程にタイマーを導入して、時間管理を徹底し、発酵後に行う作業工程についても明確な基準を設けた。また、仕上がり基準を作成し、焼き釜に完成写真を貼付することで、焼き加減などを瞬時に判別できるようにした。このようにした結果、日本人社員の教育にも役立った。
- 会社の食事会などは、日本人が送迎を行ったり、休日は従業員同士でスノーボードなど、交流を深めている。
- 日本語能力（N3以上）又は技能実習3号の試験に合格すれば、昇給を実施している。
- 外国人従業員の病気や体調不良の際は、安心して病院に掛かることができるよう、日本人従業員が付き添うようにしている。また、健康管理のため、社食（朝・昼）を提供しており、これが従業員同士のコミュニケーションにもつながっている。

外国人本人の声

- 来日前は、会社の現地法人で半年働き、日本語やパン作りの基礎を学んでいた。働く前は、ベトナムの日本語学校にいた。
- お金を稼ぎ、技術を学ぶため、来日を決めた。いずれは帰国して、自分の店を持ちたいと考えている。
- 分からない言葉があった時は、自分で調べたり、人に聞き理解するようにしている。また毎日、新聞を読むようにしている。現在、日本語能力試験のN2を受験し、結果を待っているところである。
- 休日は買い物する以外、ほとんど日本語の勉強をしている。なお、ベトナムの日本語学校で知り合った友人達が県内にいるため、時々集まったりする。